

# ぴっころ

～子育て支援センターには楽しいことがいっぱい～



※揖斐川子育て支援センターは、子育て中のお父さん、お母さん、妊婦さん、おじいさん、おばあさんどなたでも利用できる場所です。気軽にお出かけください。

- ◇通信ピッコロを中旬に発行しています。  
図書館・公民館・保健センター・役場・振興事務所などに置いてあります。
- ◇ホームページ  
揖斐川町 <https://www.town.ibigawa.lg.jp>  
揖斐幼稚園 <http://www.ibi-youchien.ed.jp>

## 揖斐川子育て支援センター

揖斐川町上南方 193 Tel. 23-1136  
開館日 月曜日～金曜日・第3土曜日  
9:00～16:00

- ◎幼稚園のなかよしタイム(園庭開放)  
5月11日(水)・25日(水)  
各幼稚園へお問い合わせください
- ◎揖斐幼稚園の開放日 5月18日(水)  
直接幼稚園へ申込みください。  
Tel. 22-6008 (当日可)

## 5月の活動予定

行事の申込みは、前月第3水曜日より実施日前日まで受付けています。(電話予約不可)

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6	7
8	9	10	11	12 リコーダー演奏会	13 りんご交流	14
15	16 いちご交流	17 さくらんぼ交流	18 リトミック	19 おさんぽ会 (坂内地区)	20	21 開館日
22	23	24 子育てと仕事を両立したい方のためのハローワーク	25	26	27	28
29	30 ピアノ演奏会 誕生会	31	◎育児相談は毎日、子育て支援センターで直接受け付けます。 ・行事等中止になる場合もありますので、お気軽にお問い合わせください。 ・年齢別交流は『始まりの会』を予定しています。			

子育て支援センターは、子どもに関する(0～18歳未満)あらゆる相談窓口です。  
一人で悩まないで気軽にご相談ください。

## ▶ 子育てちゃんねる

### 泣くに寄り添う子育て

～泣くことを受け止めてもらえることから子ども達は自立に向かえる～



幼い時ほどストレートに感情を表し大声で泣きます。子どもにとって「泣く」ことは、強い感情を外に出し気持ちを落ち着かせる働きがあります。成長に欠かせない経験を大切に！

#### ※3つのポイント

- ①泣きたいときに泣ける環境・・・子どもの健全な発達に欠かせない安心・安全の感覚を得ます。
- ②不安になったらいつでも戻れる安全基地・・・泣いてもいつも受け止めてもらえる人がいることで子どもは外に自分の世界を広げていけます。
- ③感情表現のしかたは子どもの個性・・・どの子にも泣きの一つ一つに理由があり、表現にも個人差がある、その時々の子どもの内面に目を向けましょう。

一般には4歳頃から感情のコントロールができるようになります。年齢や発達、一人一人の個性を見ながら、その子の「今」「泣き」を受け止め、寄り添い、自立に向けて援助してあげましょう。

## 揖斐川町は、住民の皆さんの子育てを応援しています。 ～子育て支援センターの紹介～

年齢別交流で散歩を楽しんでいます。施設の周りを歩いて、草花に季節を感じたり、川の流れる様子を見たりしてのんびり歩きました。中島公園にある水車の前を通ると、涼しい風が吹いて気持ちよくて一休みして目的地の「いびがわゆめパーク To・Le・Mo（トゥールモ）」に到着！大型遊具やブランコ、屋根つきの遊び場など、たくさんの遊具に子ども達は大喜びでした。遊具に目移りして走り回る子ども達を追いかけるママは大変そうでしたが、思い切り遊んで楽しかったようです。「今度はパパと一緒に来たいね。」と話しながら公園を後にしました。

花の名前を調べたり、写真を撮ったりしながらのんびり歩きます。



中島公園で水車を見ながら休憩中……



たくさんの遊具で時間いっぱい遊びました。



## 「春見つけ」でかきました！

～おじま幼児園～

ぽかぽかとやわらかな暖かい陽射しの中、小島地区の散策に出かけました。園周辺には、子ども達の大好きな虫や草花がたくさんあり、見たり触れたりして、季節を感じて楽しむことができます。

この日の、目的地は「大門神社」です。田畑のあぜ道を歩いて行くと、小さな「オオイヌノフグリ」を見つけました。「かわいいねーちいさいねー」と皆でそっと摘みました。「虫はいないかな？」と子ども達は一生懸命虫探しをしましたが、虫はまだまだ寒かったようで、見つけることができませんでした。「次に来たときはいるかな？」という子ども達に保育士が「また来ようね」と、声をかけると、残念そうにしていた子どもも一瞬で笑顔に変わりました。

園に帰ってきてからは、お家の人が作ってくれたお弁当を食べました。園庭にレジャーシートを敷いて青空の下で食べるお弁当は格別！「みてみて」「おいしい」とお家の人の愛情たっぷり詰まったお弁当は、子ども達を笑顔いっぱいしてくれました。帰りのお迎えの時に「おべんとう おいしかったよ」とお母さんに伝える子がいました。そんな子どもたちの姿を見て、感謝の心が育っていることを、とてもうれしく思いました。

「コロナ禍で自然に触れて遊ぶ機会が減ってきていますが、子ども達は様々な経験を通して成長していきます。一日でも早く子ども達がのびのびと自然の中で遊べる日が来ることを願っています。」

